

幼稚仔魚調査によるイシガレイの採集量と漁獲加入動向

福島県水産試験場 水産資源部、相馬支場
平成18年福島県水産試験場事業報告
分類コード 19-04-4200000

部門名 水産業－資源管理－イシガレイ
担当者 山田学・根本芳春

I 新技術の解説

1 要旨

- (1) イシガレイは沿岸浅海域での採集調査において、過去8年間でH15、H16、H17年級の稚魚採集数が非常に多かった(図1)。採集数から、稚魚分布量は $H16 > H15 \approx H17$ 年級であることが推測された。採集した稚魚の成育は、H15年級とH17年級はほぼ同じであったが、H16年級は満1歳を過ぎた頃からH15年級より生育が若干遅れる傾向にあり、H16年級は漁獲加入時期が遅れることが推測され(図2)、市場調査の結果からも、成長の遅れが裏付けられた。
- (2)市場調査から、H15年級は県南部ではH16年1月頃から、県北部ではH16年6月頃から全長20～28cmで漁獲加入したものとみられ、その後H17年6月頃まで漁獲の主体となっていた(図3)。また、この年級の漁獲加入量はH14年級の2倍程度であったと推測された。
- H16年級は、県南部でH17年2月頃から、県北部でH17年7月頃から全長20～28cmで漁獲加入したものとみられ、H17年8月頃から継続して漁獲の主体となっている。その漁獲加入量はH15年級の2倍程度であったと推測された。
- H17年級は、県南部でH18年9月頃から、県北部でH18年7月頃から全長20～28cmで漁獲加入したものとみられた。その漁獲加入量はH15年級と同程度であったと推測された。
- (3)このように、調査における採集数とその後の漁獲加入量に相関が見られることから、当該調査によりイシガレイの漁獲加入量と資源の増減動向の予測が可能であることが示された。
- (4)H16、H17、H18年計のイシガレイ漁獲量は、前年比でそれぞれ1.3倍、1.8倍、1.5倍となった(図4)。今後の資源動向は、H16、H17年級によりしばらくは高水準を維持すると考えられるが、H18年級の水準は低いと推測されることから、その後減少傾向に転じるものと予測された。

2 期待される効果

今後のイシガレイの漁獲サイズや漁獲量の増減傾向が把握可能となることから、小型魚保護による漁獲量の増加、持続的生産による供給および収入の安定等、漁業者による効率的、持続的な資源の利用を支援することが可能となる。

3 適用範囲

漁業者

4 普及上の留意点

新規加入水準が高い年級でも、加入後の漁獲圧力により、その資源尾数が急激に減少することも考えられることから、加入後も継続して資源動向を把握し、評価していく必要がある。

II 具体的データ等

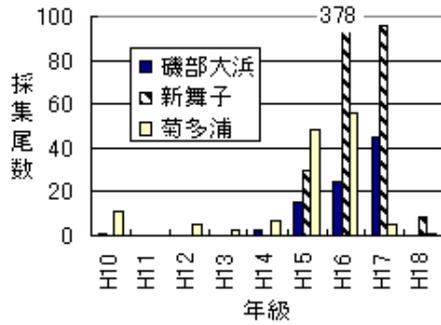


図1 稚魚採集数の推移
* 4～7月の合計値、新舞子は2003年から調査開始

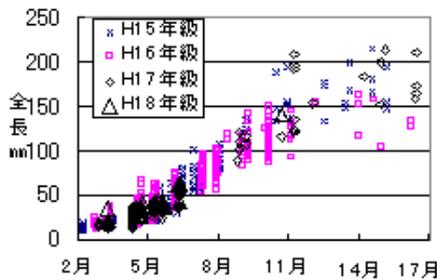


図2 採集全長の推移

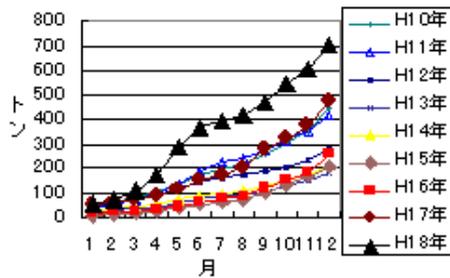


図4 累積漁獲量

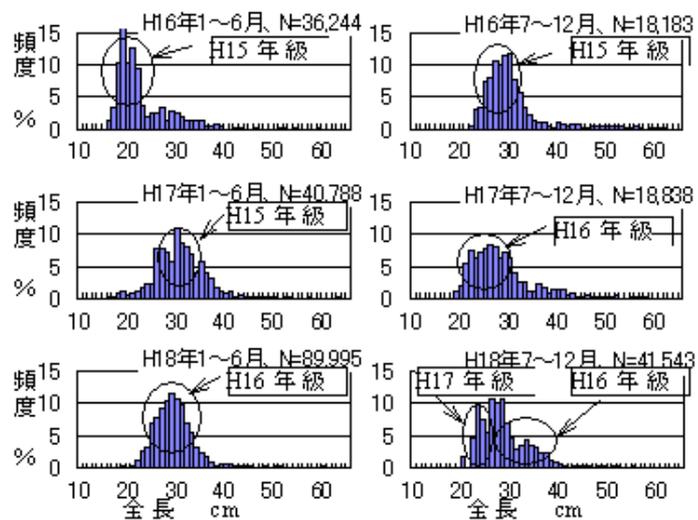


図3-1 漁獲物の全長組成(いわき地区)

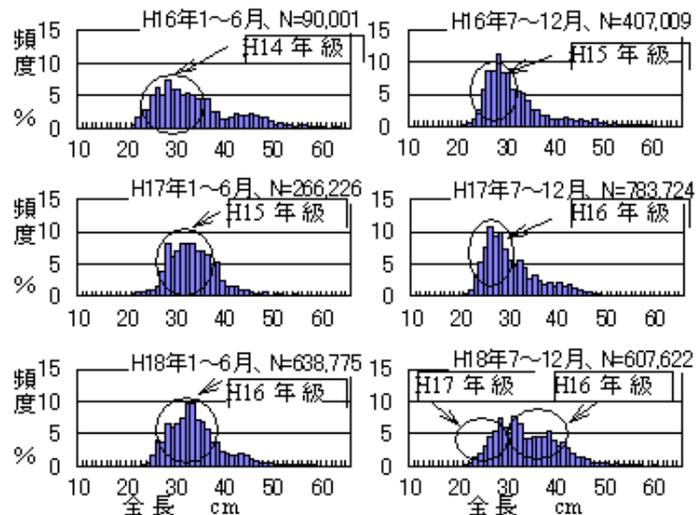


図3-2 漁獲物の全長組成(相双地区)

III その他

1 執筆者

山田学

2 主な参考文献・資料

(1) 幼稚仔魚調査によるイシガレイの採集量と漁獲加入動向. 東北底魚研究. 26. (2006)